

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

<https://takasaki.gunma-unesco.com>

UST

発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027) 321-1297

自信に満ちて堂々と!

第52回高崎ユネスコ国際児童画・作文入賞者合同表彰式

令和6年12月14日(土) 高崎市文化会館

12月14日(土) 午後1時45分より高崎ユネスコ協会主催、高崎市共催の合同表彰式が高崎市文化会館大ホールにて、児童画展の入賞者94名中67名と作文の入賞者53名中46名と、その家族、そして来賓14名で開催された。串田昭光会長と高崎市長(藍美香市民部長代読)のあいさつ、後閑賢二高崎市議会議長の祝辞の後、受賞者一人ひとりが来賓



高崎ユネスコ協会会長賞授与

ユネスコ国際児童画展 講評

「今年のユネスコ国際児童画展の審査を終えて」

高崎市立中尾中学校教諭 宮野 蘭

今年のユネスコ国際児童画展は1199点もの作品が各学校から展示され、合計94名の作品を受賞作品として選ばせていただきました。

その中でも、高崎ユネスコ協会会長賞に選ばれた森下さんの作品「海をいっしょに」は、高台から海を見下ろす、2人の後ろ姿が、まず目に入ってきます。画面の下の方には手すりや樹木上の方にはアジサイが描かれ、それらが額縁の様になり、自然と2人が見つめる海に視線が行

「海をいっしょに」高崎市立金古小学校6年 森下 楓子



ふわふわしていて、思わず触ってみたくなるほどです。ネコを優しく抱える鈴木さんの「手」の形から、このネコは、鈴木さんにとっていつも一緒にいてほしい大切な存在であることが伝わってきます。

くような構図となっています。遠い「海」は淡い色彩で描き、手前にいる二人は細かくリアルに描くことで見事に遠近感が表わされています。美しい海を前に仲良さそうに、肩を寄せる二人の後ろ姿からも、海を目の前にした清々しい気持ちや、嬉しさが伝わってきて、この作品を見ているこちらにも一緒に海を眺めているかのように思わせてくれます。

今回の絵の審査を通して、この絵の作者は「どんなことを感じ、何を考え、何を表そうとしたのかな」と、色々と見る側の想像力を掻き立ててくれました。皆さんの作品から、絵というのは文字や言葉では表せない、豊かなメッセージを伝えてくれると、改めて実感することができました。これからも、自分が感じたことや考えたことを表現し、作品をたくさん、生み出して下さい。最後になりますが、お子さんの豊かな表現を支えて下さったご家族や先生方に感謝申し上げます。

同じく高崎ユネスコ協会会長賞に選ばれた鈴木さんの作品「自画像」は、鈴木さんがネコを大事そうに抱え、こちらを見つめる作品です。まず、驚いたのは、ちみつでリアルなテイラーのある表現力です。特に、人物とネコの透き通った「瞳」の表現に目を奪われます。人物の髪の毛やネコの毛並みの一本一本の線が、色の濃さを変えながら丁寧に引かれ、こちらを見つめるネコは毛がとても



「自画像」高崎市立寺尾中学校3年 鈴木 莉央

高崎ユネスコ

作文審査・講評

高崎ユネスコ作文部長

品田 京子

今年度も、高崎市内の児童生徒から、世界平和を願い平和の心を育てる内容の作文を公募したところ、小学校は537編、中学校は230編、計767編の作文が寄せられました。応募作品は、ユネスコ協会役員や国語主任会の先生方が審査を行い、小学校30点、中学校23点の優秀作品を選定しました。

応募作品の題材は、世界平和、思いやり、ボランティア活動、伝統文化の継承、SDGsなど多方面にわたっていましたが、今年度は、世界で起こっている戦争や紛争に目を向け、平和の意味を問う作品が目立ちました。その中で小学校の部の高崎ユネスコ協会長賞に選ばれたのは、



受賞の絵と共に

作文朗読代表者

小学校の部

かがやく未来を

世界中の人たちと

高崎市立吉井小学校三年

齋藤安佳里

吉井小学校三年齋藤安佳里さんの『かがやく未来を世界中の人たちと』でした。齋藤さんは、戦争中日本人が他の国の人たちを傷つけていたということを母親から聞いて驚きますが、八月十五日に旅行で韓国を訪れたとき、韓国の人たちの優しさに触れます。その体験から、一日も早く戦争がなくなり、世界中のみんなの未来が明るくキラキラ輝いてほしい、と強く感じたこと述べています。中学校の部の高崎ユネスコ協会長賞は、箕郷中学校一年石井結珠さんの『幸せの郵便屋』でした。石井さんは、戦争に行ったり身内を亡くしたりと辛い体験をしてきたにもかかわらず、いつも穏やかな笑顔で幸せをくれる曾祖父との交流を通して、周りの人を幸せにすることで、自分も幸せになれると知ります。そして、みんなが「幸せ」を感じることができると世界にするために、自分が感じた「幸せ」を周りに配ろう、と訴えています。

どの作品にも、子どもたちのエネルギーや創造性、自発性が感じられ、審査員に未来への希望と力を与えてくれました。子どもたちの純粋な平和への希求を私たち大人がしっかりと受け止め、平和な社会を築いていかなければならないと改めて痛感しました。

八月十五日は、私たち日本人にとって大切な日です。七十九年前のこの日、せんそうがおわりました。このせんそうでは、多くの町がはいされ、たくさんの人がなくなり、きずついたと学びました。おそろしいせんそうをくり返さないために、私たちは、この日をずっとわすれてはいけなと思います。

でも、この日を私たちとはちがう気持ちでむかえる人もいます。今年の八月十五日、私は家族旅行でかん国にいました。旅行の前、私の母は、「かん国の人たちにとって、八月十五日は日本から自由になった日です。せんそう中、日本人はかん国でひどいことをしました。もしかしたら、八月十五日に日本人を見て、いやな気持ちになる人もいるかもしれない。」と、心ばいしていました。そして、私の父はインドネシア人なのですが、「インドネシアも同じですよ。八月十七日に日本から自由になりました。」とおしえてくれました。

たことをしって、とてもおどろきました。家族がころされたり、自分がきずつけられたり、住んでいるところをこわされたりと、つらい気持ちを知っているのに、他の国の人たちに同じことをしたのは、なんて悲しいことなのだろうと思いました。

でも、それが「せんそう」なのだと言いました。せんそうは、人間が人間でなくなってしまう。だからせんそうをしてはいけない、と真けんに言っていました。

私は、せんそう中の日本人や外国の人のことをかんがえてみました。大切な家族がころされてしまった人、大けがをしてしまった人、家がやかれてしまった人、そして、家族とはなれて、遠い国までたかに行かなければならなかった人。どんなにつらくて、くるしくて、悲しかったでしょう。この人たちの気持ちを考えると、頭の中がぐちゃぐちゃになって、心がぎゅーっといたくなりました。私たちが持っている心は、日本人も外国人もみんな同じです。もう、こんなにつらくて悲しい思いはだれにもしてほしくないと思います。

八月十五日にかん国にいた時、かん国の人たちは、とてもやさしくしてくれました。インドネシアにいる父の家族も、いつも



https://www21.nichibun-g.co.jp/zuko_gallery/ (提供: 日本文教出版株式会社 イラスト: やまねりようこ)



【城東小学校】
6年生
毎日見ている
この景色



【上郊小学校】
1年生
わたしの
おひさま
おひさま



【上郊小学校】
1年生
ぼくの
おひさま
（ひとつ下に
スクロール）

日本文教出版デジタルアーカイブ「みんなの図工ギャラリー」に3作品が紹介されています。

私を大切にしてくれます。これからは、日本だけではなく、他の国の人たちのことをもつと知って、良いところをたくさん見つけて、世界中の人たちと仲よ

くならないです。

今も世界中のいろいろな場所
でせんそうをしています。どう
か、一日も早くせんそうがな
くなりますように。せんそうでき
ずつく人がいなくなりますよ
うに。世界中のみんなの未来が、
明るくキラキラかがやいてほし
いと心から思います。

中学校の部

幸せの郵便屋

高崎市立箕郷中学校一年

石井 結珠

人の幸せそうな姿を見ると、
なんだか自分まで幸せになるよ
うな気がする。そう思ったこと
がある人もいると思う。

私にはいつも幸せをくれる人
がいる。それは曾祖父だ。曾祖
父の家に行くとき笑顔で優しく迎
えてくれて、小学校低学年のとき
は、下校途中の道で私の帰りを
待っていてくれた。そんな温
厚な曾祖父を私は密かに尊敬し
ている。

小学二年生のとき、曾祖父、
母、兄と一緒にスイカを取るた
めに早朝、曾祖父の畑に行った。
曾祖父はスイカ以外にもナスや
ピーマン、大根やきゅうりなど
のたくさん野菜を作って毎年
私たちにどっさり分けてくれて
いた。朝の新鮮な空気、そして
一から丁寧に作り方を教えても

らったあの時間は決して忘れ
られない。それからとりたてのス
イカを曾祖父の家で家族全員で
集まって食べた。一口食べると
みんな一斉に「美味しい」と口
にして、曾祖父はそうかそうか
と嬉しそうにうなずいていた。
幸せに満たされた時間だった。
「おじいちゃんのスイカは本当
に美味しいよね。」
「へえ、それは嬉しいなあ。来
年も作るよ。」

と幸せそうに笑っていた。九十
代でも、ほぼ毎日畑に通い、季
節の野菜を作っていた。そして
作ったたくさん野菜を近所の
人たちにも配り、大変喜ばれて
いた。

曾祖父は戦争中、自分の兄や
多くの知人を亡くしたり、自分
自身も戦争に行ったりと、辛い
少年時代を過ごしてきた。私に
私には想像できないくらい辛い
思いをしてきたのだろう。だが
私は曾祖父の辛い顔や険しい顔
は見ることがない。いつも穏や
かな優しい笑顔で、私に幸せを
くれる。曾祖父を見てみると周
りの幸せが自分の幸せになっ
ているんだと感じる。そして、曾
祖父の周りにはいつも居心地のい
い空間を作り出している。
そんな曾祖父も半年ほど前か
ら老人ホームに入居している。
きつと持ち前の穏やかさで人々
を幸せにしているだろう。

私は曾祖父との時間が宝物だ。
だから、私はもらった幸せをそ
れ以上の幸せにして曾祖父や周
りの人に返したいと思っている。
そして、幸せを周りに配れるよ
うな人間になりたい。

周りの人を幸せにすることで、
自分も幸せになれる。このよう
な気持ちを持つ人が増えれば、
幸せの好循環でより多くの人が
「幸せ」を感じられるはずだ。
自分が感じた「幸せ」を周り
に配ろう。一人一人が「幸せ」
を配ること、みんなが「幸
せ」を感じることのできる世界
になることを願っている。

第2回野外体験活動

晴天のもと溢れる笑顔

青年部ユース 杉山りのん

令和6年11月30日（土）、秋
晴れの清々しい晴天の中、第2
回野外体験活動を実施しました。
今年度は、高崎市内の小中学生
30名とともに下仁田ジオパーク
を訪れ、伝統的名産であるこんに
やくの手作り体験を行いました。

9時に高崎駅を出発し、上信
電鉄で約1時間かけて下仁田駅
に到着。最初に下仁田自然史博
物館の学芸員による下仁田町の
説明を聞き、「青岩公園」に移
動しました。天候に恵まれたお
かげで、徒歩で移動している間

青岩公園で石調べ

こんにやく手作り体験



にやくを持ち帰りま
した。

活動を通して多くの
体験を重ね、下仁田の
自然や歴史について学
ぶことができました。
活動が終わるころには
参加者同士もすっかり
仲が深まり、笑顔で解
散しました。

最後に、私自身、学
生ボランティアとして
初めて参加させていた
だきましたが、子ども
達と一緒に貴重な時間
を過ごすことができました。活
動に関わってくださった全ての
方々に心から感謝申し上げます。

も自然の景色を鑑賞できました。
青岩公園に到着後、学芸員より
川原の石についての解説があり、
参加者は石探しにチャレンジし
て、鑑定図と照らし合わせなが
ら、真剣に石を見分けていまし
た。その後、石畳の上で昼食を
食べ、英会話のゲームを行いま
した。最初は緊張した面持ちだ
った参加者も、交流を通じて笑
顔が溢れていました。

次に、日本列島を東西に横切
る「中央構造線」を見ることが
できる関東で唯一のスポットで
ある「川井の断層」を見学しま
した。続いて「こんにやく手作
り体験道場」を訪れ、指導の下
で手作り体験を行いました。完
成を待つまでの間に、こんにゃ
くの製造や下仁田の地場産業に
ついて学び、出来上がったこんに



川井の断層

参加者の
感想抜粋は
こちらから



講演 「幸せはそれぞれの人の心が決める」

子どもの幸せ部長 田中 けい子

令和6年11月9日(土) 高崎市中央公民館視聴覚集会室にて、高崎ユネスコ第44回「子どもの幸せを考える研究集会」が開かれました。ユネスコ会員や小中学校の校長先生、PTA役員さんなど46名の皆さんが講演を聞いて学びました。

講師は杉浦紙工株式会社代表取締役会長の杉浦芳郎様でした。杉浦様は高崎の生まれで紙製品を作る製造業の会社経営をされながら、高崎チンドン倶楽部の代表として周りの人に笑顔を届ける著名な方です。

「始めに人が幸せを感じる時とはどんな時でしょうか。人それぞれで幸せの感じ方は違うと思いますが、自分の経験から言っても夢中になって何かやっているとき、目標に向かって一生懸命なときは幸せだと思います。中高校生の時吹奏楽部に入っていて、関東大会出場を目標に活動しているときは幸せでした。今も音楽は趣味で楽しく取り組みています。」

幸せを感じるには出会いも大切だと思います。趣味として取り組めるものに出会い、それ続ける仲間や伴侶に出会えると、



講演する杉浦芳郎氏

第4回

国際理解展「示会」

研究企画部長 峯岸 弘和

令和7年2月9日(日)、高崎市中央公民館において第4回国際理解展示会を開催しました。この展示会は市内の児童生徒が、展示物や解説をとおして世界の国々の風俗・習慣等に触れることにより、視野の広い国際的社會人としての資質を育てること、また広報等で市民にも参加を呼びかけ、多くの人が異文化に触れ、平和について考える機会とすることをねらいとしています。

今年もアジア・ヨーロッパ・南北アメリカ・アフリカ・オセアニアの各地域から、多くの国



JICAコーナー



興味を惹いた「エジプトの砂」

の特徴ある物品が展示されました。また、JICA東京・高崎分室から職員の方が参加してくださり、途上国を中心に色とりどりの小物が展示されました。このコーナーでは日本が輸入している物(一次産品)がどこから来ているのかを楽しく学べるカードゲームもあり、多くの家族連れが熱心にカードをめくっていました。そのほか世界地図やSDGsのシール、マスキングテープ等のおみやげもあり、小さな子どもたちは大喜びでした。

また今年は高崎ユネスコ協会ユース部のコーナーも設けられ、高崎経済大学と群馬県立女子大学の学生が、それぞれの大学での

ボランティア活動等の様子を説明してくれました。今年は例年の倍以上の来場者があり、特に家族連れが目立ちました。来場のきっかけを尋ねると「学校で配られたチラシを見て。」という返答が多く、中には「国際児童画展で絵が掲示されユネスコに興味を持ちました。」という方もいらっしゃいました。ご協力いただいた学校の先生方にあたためて感謝申し上げます。

初参加のユース部



ユース部

アンケートの感想抜粋はこちらから



追悼

秋山信行キャンプ
部長を偲んで「共に葛藤し、歩んだ
ユネスコ青少年キャンプを」「テント内で、祝った
貴殿の誕生日も……」

参与 相原 裕

秋山氏(1989年発刊
『20周年誌』より)

ユネスコ青少年キャンプへの参加は、当時の事務局長で、第二代会長の佐藤好三氏から誘いを受けた1974年51年前の西毛野外教育センターでのキャンプでした。秋山さんとは山登りを楽しんでいたり、その呼びかけには心が動きました。しかしながら、当初は、百名にも及ぶ、異世代間の児童生徒を支える活動でしたので、暗中模索の時期が続きました。同時に、ユネスコという命題もあり、保護者の皆さんに協力を得る絶好の機会と捉え、夏休み前に「親子の集い」を実施し、その運営に備えました。「野外活動指導者」秋山さんの出番でした。画期的との評価を受け、児童生徒には自信を深める機会に、保護者の安心感の醸成に繋がりました。又、自然に身を任せる活動

だけに、予期せぬことは度々で、登山道も未整備で、低学年生にはリユック越しに背中を支えることもあり、それだけに、「登山は厳しい」との声を受け止め、反省と点検を繰返す中で、継続できたのは登頂時に児童生徒がおにぎりを頬張る逞しい姿でした。そうした体験が、ユネスコ活動を語る際の二人の縁になつていたことが、走馬燈のよう感じられる昨今でした。くしくも、秋山さんの誕生日(八月六日)に、テント内で、祝杯を交わすこととなり、終生、忘れられない思い出となりました。貴殿の揺るぎない志と情熱に満腔の敬意を称し、安らかなるご冥福をご祈念申し上げます。(秋山信行氏は令和6年11月2日80歳で逝去されました。)

県ユ連主催事業

運営研修会兼事務局員研修会

令和6年10月18日(金)沼田ユ協主管によって、ホテルペラヴィータを主会場として、研究協議テーマ「私たちのたからもの」のアンケート調査のまとめの発表と各ユ協からの「私たちの街のたからもの」の紹介、並びに文化遺産保存とユネスコ協会の関わりについての情報交換を行った。講演会では「大正ロマンのまちづくり」と題して、高山 正講師(郷土史家・沼田市歴史資料館初代館長)の講話と現地における見学・説明・散策をした。沼田市街地の活性化



発表する山崎事務局長

海外青年交歓研修会

標記研修会が令和6年11月2日(土)、伊勢崎市紺の郷で伊勢崎ユ協主管により開催された。国際課担当は「伊勢崎市の多文化共生まちづくりへ」と題し、外国人生と共生や異文化理解の現状・施策を紹介。広報課は「いせさきFM市政情報番組への多言語放送導入」の背景と現状を説明。外国籍学校生活支援指導助手と内モンゴル出身の市認定キーパーソンが「驚きと感動の中の普通の生活」「住めば都、楽しく生きよう」と語った。市総人口21万人のうち1万6千人が外国籍であり、多文化共生は不可欠。特に子どもへの日本語指導・学校や社会への適応支援、外国人市民の災害時支援助など、日本語指導ボランティア活動など、外国人自身が積極的に取り組むことが印象に残った。

(文責・串田)

ユネスコスクール研修会

第10回群馬県ユネスコスクール研修会が令和6年12月3日(火)、藤岡市地域づくりセンターで開催された。テーマは「ESD/SDGs、ユネスコスクールの理解と実践の質的向上」で、I部では法政大学教授・坂本氏が「デジタル時代の新たなESD政策」を講演、II部では藤岡市立小野中学校の荻原校長と石田屋の石田会長がそれぞれ「防災・減災教育の推進」と「SDGsへの取組」を発表した。坂本教授は広い視野



坂本氏、石田氏、荻原氏

日ユ協連主催事業

関東ブローin茨城

今年度は令和6年10月12日(土)に、茨城県土浦市で盛大に開催された。つくば国際大学にて「進めよう!平和を目指して、SDGsは自分ごとにして、いざアクション!」を大会テーマにして活発な取組が見られた。

全国大会in愛媛

2024年11月23日(土)、第80回日本ユネスコ運動全国大会in新居浜がリーガロイヤルホテル新居浜で開催された。新居浜市は人口11万3千人の工業都市で、市内全校と新居浜南高がユネスコスクールに加盟している。大会テーマは「持続可能な未来へ」SDGsの先進事例から学ぶ。参加者は韓国ユネスコ協会のメンバーを含む343名(群馬2名)だった。大会は阿部一成氏の篠笛演奏後、記念講演で末岡照啓氏が江戸時代から続く別子銅山の環境対策や新居浜港のCNP(カーボンニュートラル)への取り組みを紹介。さらに新居浜南高や地域の学校による「学びのさざなりサイクル」活動の発表などを通じて、SDGsを学び、先人たちの知恵から多くの刺激を受けた。翌日別子銅山を訪れ、講演での学びを実感した。

(文責・松本)

シリーズ表敬訪問⑤賛助団体

国際ソロプチミスト高崎

会員数…22名

(2025年2月現在)

会長…森本ふみ子

創立…1993年(会員35名)

特徴は会員が全員女性であり、その活動も主に女性と女兒の生活の向上に向けられていること。経済的扶養責任を担いステップアップを目指しているシングルマザーの支援、ハナミズキスカラシップで県立女子大生2名への奨学金、明和県央高Sクラブへの助成、高崎商科大学シグマソサエティの社会連携センターへの応援、子ども食堂NPO法人オドリバへの食糧・資金援助、福祉作業所への衣類提供など様々な奉仕活動を行っている。また、高崎商大附属高と明和県央高の生徒から作文を募集し、優秀作品執筆者2名を伴い東リジョン主催のユースフォーラム(渋谷・国連大学)へ参加するなど青少年育成にも努めている。コロナ後の会員減少が課題。活動のためにチャリティーコンサートを毎年開催。今年は4月に行うので、ぜひ足を運んでほしい。



左から吉田様 森本会長 柳澤様

令和6年度賛助会員・

行事協力会員

■(株)島田教材社

■(株)高崎松風園

■(株)トミザワ

■日本火薬(株)

■荒瀬印刷(株)

■杉浦紙工(株)

■(株)小塚製作所

■(株)高長組

■あずま保育園

■段平寿司

■豊田園

■(有)松本孔版社

■小森谷商店

■クシダ工業(株)

■糸井商事(株)

■ゆうあい総合法律事務所

■清水歯科医院

■セブンイレブン高崎上小境店

■ほりぐち鍼灸整骨院

■(有)曾根組

■認定こども園エデュカール城之内

■認定こども園ひよこプリスクール

■認定こども園高崎商科大学佐藤幼稚園

■三山幼稚園

■せんだん保育園

■高崎ロータリークラブ

■高崎北ロータリークラブ

■高崎セントラルロータリークラブ

■高崎東ロータリークラブ

■高崎シンフォニーロータリークラブ

■国際ソロプチミスト高崎

■高崎ライオンズクラブ

■高崎三山ライオンズクラブ

■高崎和田ライオンズクラブ

■高崎中央ライオンズクラブ

■高崎城ライオンズクラブ

※敬称は略させていただきます。

祝 山崎 貞幸 様

高崎市社会教育功労者表彰

山崎貞幸様が令和6年12月14日(土)、高崎市市民活動センターソシアスにて「高崎市社会教育功労賞」を受賞されました。10年以上にわたる機知に富んだ献身的な活動が社会教育関係者に認められた証です。特に、高ユ協では副会長兼事務局長として5年間、理事会や会議の進行や提案、事業運営を的確にリードし、活動の充実に貢献されました。また、県ユ連役員(会計理事)として支部活動の情報発信や共有にも尽力されています。



山崎貞幸氏

故人を偲んで

故 佐藤益郎氏

佐藤益郎氏が令和7年2月12日94歳でご逝去されました。温厚篤実でまっすぐに生きる人柄が醸し出す誠実さ・優しさを誰かが慕っておりました。豊かな微笑みに救われた記憶が蘇ってまいります。参与としてのユネスコ活動への深い造詣や愛情により最後まで力強いエールをいただきました。

「世界寺子屋

運動」

ご協力へのお礼



世界寺子屋運動推進委員長

佐藤 朋子

日本ユネスコ協会連盟主催「書きそんじハガキ・キャンペーン2025」に多くのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

令和7年2月17日(月)に累計作業を行い、小・中・特別支援学校、幼稚園、市民の皆様からのご支援により、ハガキ・切手・テレフォンカードの合計額は、二十五万三千四百八十三円分となりました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

さて、日本ユネスコ協会連盟では、2023年度(昨年度)も各国の寺子屋において「識字教育や教育活動、職業訓練によ

故 秋山 登氏

秋山登氏が、令和7年3月8日99歳でご逝去されました。賛助会員として長きにわたり高ユ協を支えて下さったことはもとより市議会議長として高崎市を牽引した偉人でありました。

両氏には大変お世話になりました。心よりご冥福をお祈りいたします



スタッフで仕分け作業

る収入向上事業を実施し、カンボジア・ネパール・ミャンマーの2400人の方々に支援を届けられました。引き続き、1人でも多くのの方に学びの機会を届けられるよう、キャンペーンを盛り上げていきたいと思います。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

あとがき

私事ですが、令和6年11月30日、文部科学大臣より任命されたユネスコ国内委員の3年の任期が終了しました。国内委員会総会や文化・コミュニケーション小委員会出席、関ブロでの委員会報告、国際フォーラム参加、創造都市ネットワーク「まんが・アニメ」分野創設に向けた調査など、多忙で刺激的な日々を過ごしました。

国内委員会での普遍的課題は次世代への継承。高ユ協では高経大生と県立女子大生によるユース部を新設し、「協力者」から「担い手」へ。今後、若い発想による活性化を期待しつつ、ユネスコ精神のもと地域に根差した活動を次世代へ繋いでまいります。(松本)